

A 語句の意味と読み

- (1) うたがわれ（歴史的仮名遣いでは「うたがはれ」）／送り仮名の「れ」まで入れて答える
- (2) 悪く言われる。非難される。／「謗」＝そしる。「信」にして疑はれ」と対になっている
- (3) はずかしめる。侮辱する。恥をかかせる。
- (4) にくむ。きらう。／「悪（あ）し（悪い）」「悪（いづ）くんぞ（どうして）」と読み分ける
- (5) （災いを）身に受ける。こうむる。／語注の「被る＝身に受ける」を手がかりに
- (6) 厄介に思う。困りものとしてもてあます。／もとは「心配する」。ここは村人の側から見た気持ち
- (7) 捕虜。敵に生けどりにされた者。

B 句法・文法

- (8) 見・被　／①と②で、動詞の上に置かれている字をそれぞれ思い出す
- (9) る　／四段動詞「疑ふ」の未然形に付くので「る」
- (10) 上の「辱しむ」が下二段動詞だから。「る」は四段・ナ変・ラ変に、「らる」はそれ以外に付く。／⑬「治めらる」（下二段）、⑭「制せらる」（サ変）も同じ理由で「らる」
- (11) 已然形＋「ば」で順接の確定条件。ここは「侮辱されると（いつも）」という恒常条件にとるのがふつう。教科書によっては確定条件とだけ説明するので、お使いの教科書の説明に合わせることに。

(12) 為A所B　／「AノBスルところトナル」＝「AにBされる」

(13) 於（「于」「乎」も同じはたらき。教科書によっては「置き字」と呼ぶ）／「動詞＋於＋人」で「人に～サル」

C 主語・指す内容

- (14) 盆成括（ぼんせいかつ）　／『孟子』で、孟子が「死ぬだろう」と予言した人物
- (15) 兄　／兄を召したのは尚書（の長官）なので、「尚書に」の「に」は動作をする側を示す。呼ばれた先（行き先）を示す「に」ではない。
- (16) 吾（わ）が属（ともがら）＝私たちの仲間　／「属」＝仲間・連中
- (17) 衛（えい）の太子　／為A所BのAが江充、Bが「敗」。Aは動作をしかける側
- (18) 後（おく）れをとった側。制するのは「人（相手・他人）」の方。／⑪と対句。先手なら制する側、後手なら制される側に回る
- (19) 身分のないただの男でも、侮辱されると剣を抜いて立ち上がる。　／匹夫＝ひとりのつまらぬ男
- (20) 村里の人々に厄介者としてもてあまされる（嫌がられる）。　／「AのBする所と為る」＝「AにBされる」
- (21) 先手を取れば相手を抑え、後れをとればかえって相手に抑え込まれる。
- (22) 体を使って働く者は、他人に治められる（支配される）。

D 口語訳

E 内容・記述

(23) ⑨は「為＋名詞」で「～の捕虜になる」の形、⑩は「為A所B」でAが動作をしかける側を示す形。(四十五字) / ⑨は「為」の下に名詞が来るだけ。⑩は「為」と「所」が組になる

(24) ⑦の「被」は「こうむる」と読む動詞で、「災いを身に受ける」という意味を表す。動詞の上に置いて「～る・～らる」と読ませる受身の用法とは別のはたらきである。ただし「～を受ける」という受け身的な内容を表す点は共通する。

(25) 主語が動作を「する側」か「される側」かで決める。される側なら受身で「(人)に～される」と訳す。「於」の下が場所を表す語なら「(場所)において～する」、上が状態を表す語(多し・紅なりなど)なら比較で「～より…だ」と訳す。下が人でも「人に施す」のように受身にならないことがあるので、上の動詞と主語の関係で判断する。 / 同じ「於」でも受身・場所・比較の三通りがある

F 出典・故事・思想

(26) 先んずれば人を制す / 『史記』項羽本紀。会稽の郡守殷通(いんとう)が項梁に挙兵をすすめた言葉

(27) 『孟子』(滕文公上)。儒家の孟子の言葉。 / 頭を使う者と体を使う者という、社会の分業の必要を説いた部分

(28) 論語(『論語』陽貨篇)。四書の一つ。 / 「四十にして惑はず」と同じく、四十歳を語る章

【現代語訳(全文)】

- 一 誠実であるのに疑われ、忠義であるのに悪く言われる。
- 二 身分のないただの男でも、侮辱されると剣を抜いて立ち上がる。
- 三 四十歳になっても人に憎まれるようでは、その人はもう終わりだ。
- 四 盆成括は殺された。
- 五 兄は尚書に召し出された。
- 六 わたくしは不徳であって、祖先のみたまの祟りを身に受けた。
- 七 村里の人々に厄介者としてもてあまされる。
- 八 われわれの仲間、今にあいつの捕虜にされてしまうだろう。
- 九 衛の太子は、江充に陥れられた(失脚させられた)。
- 十 先手を取れば相手を抑え、後れをとればかえって相手に抑え込まれる。
- 十一 体を使って働く者は、他人に治められる。
- 十二 物事が思いどおりに運ぶ者はいつも他人を抑え、行きづまった者はいつも他人に抑え込まれる。